
日本東洋医学雑誌 和文投稿規程（2008年3月改訂）

1. 展望

日本東洋医学雑誌は漢方、鍼灸およびそれと深い関連を有する医学ならびに薬学領域における研究に関する未発表の原著、総説、臨床報告、基礎報告、理論と論説、東洋医学の広場、短報を掲載する。

2. 投稿者の資格

投稿論文の筆頭著者(first author)および責任著者(corresponding author)は日本東洋医学会員でなくてはならない。ただし、依頼総説においてはこの限りではない。依頼総説は原則として編集委員会が依頼する。

3. 未発表論文

3-1:

投稿論文は和文または英文とする。原則として電子媒体(CD-ROM, USB ディスク, フロッピーディスクなど)入稿とし、以下の執筆要項に従う。また電子媒体入力要項を参照のこと。

3-2:

投稿論文は他誌への投稿中あるいは論文発表したものでないこと。

3-3:

論文は人を対象としたものではヘルシンキ宣言(1964年採択, 2000年修正, 2002, 2004年注釈の追加)を遵守したものでなくてはならない。また、動物実験は動物実験に関する倫理規定に基づいて行われたものでなければならない。

3-4:

臨床試験関連論文を投稿する場合、試験開始前にその臨床試験情報を公的な「臨床試験登録機関」(UMIN臨床試験登録システム等)に事前登録されていること。

4. 論文の採否

4-1:

原稿の採否、掲載の順序などは編集委員会の委嘱した複数の審査員の意見を参考にして、編集委員会が決定する。原稿(図表などを含む)の体裁、長さ、文体などについて著者に訂正を求めることがある。

4-2:

再提出を求められた原稿は加筆訂正の上、委員会が定めた期間に再提出する。

5. 論文提出仕様

5-1: 電子媒体入力要項

CD-ROM、USBディスク、フロッピーディスクを利用する(返却はしない)。

コンピュータはWindows版、文章はMicrosoft Office Word(以下「Word」という)、図表はMicrosoft Office PowerPoint(以下「PowerPoint」という)を用いることとする。

File名称は名前(筆頭著者)、keyword、本文(図あるいは表)など内容を簡略に示したものにす(例、伊藤頭痛本文.doc、山田喘息図表.pptなど)。fileが複数に亘る場合は一つのfolder(名称例、伊藤頭痛、山田喘息など)に入れてまとめておくとよい。

なお、外字等(JIS 第一、第二水準以外の文字)による誤変換の可能性のある場合には、必ず問題箇所には赤字で印を付けた印刷原稿か、あるいはPDFファイルのいずれかを送付する。

5-2: 紙原稿

オリジナル(1部)、全文コピー(2部)、電子媒体(5-1電子媒体入力要項)(1枚)、**チェックリスト書式5-1**(1枚)を下記あてに簡易書留で送付する。

送付先 〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9番18号
国際浜松町ビル6階
社団法人日本東洋医学会
『日本東洋医学雑誌』編集委員会

5-3: 電子原稿

チェックリスト書式 5-2(1枚)を FAX で下記に送る。論文本文ファイル(Word)、図表ファイル(PowerPoint)を下記あてにメール送付する。なお、外字等(JIS 第一、第二水準以外の文字)による誤変換の可能性のある場合には、必ず PDF ファイルを添付する。

送信先 社団法人日本東洋医学会
『日本東洋医学雑誌』編集委員会
FAX 03-5733-5078
E-mail: office@jsom.or.jp

6. 著作権(Copyright)

本誌に掲載された論文の著作権は日本東洋医学会に帰属する。著者は論文の掲載が認められた後に、**著作権委譲承諾書(書式6)**に署名・捺印し提出する。

7. 執筆要項

7-1: (論文の種類と文字数)

原著、臨床報告、基礎報告は図表(写真を含む)10点以内とする。(刷上り20ページ以内とする)短報は図表(写真を含む)2点以内とする。(刷上り4ページ以内とする)理論と論説、東洋医学の広場は編集委員会で判断する。

7-2: (言語と原稿様式)

和文または英文で執筆する。文章は Word で作成し、A4 版白色用紙を縦置きとし、横書きで作成する。12~14ポイントで作成し、1ページあたり和文では28字 x 28~30行程度、英文では30行を超えないものとする。プリントアウトに際しては原稿下部の中央に、タイトルページを1ページとして通してページ数を記載する。

7-3: (原稿の作成)

A: 表紙:1ページ

表題、著者名、所属機関名(研究室名、教室名まで記載する)、所在地のすべてを和文と英文で記載する。表題中には略語、商品名を用いない。責任著者(corresponding author)はアスタリスク(*)を用いて明示し、所属機関名(研究室名、教室名まで記載する)、所在地、電話、ファックス、e-mailアドレスを表記する。ランダム化比較試験(randomized controlled trial: RCT)論文では標題または副題に「ランダム化比較試験」の語句を必ず入れる。

B: 要旨、キーワード:2ページ目

要旨は論文の本質的な特徴を示し簡潔にまとめる。和文(400文字以内)および英文(250語以内)で併記する。各要旨の下に和文、英文ともキーワード(5語以内)を記載する。

C: 本文の体裁:3ページ以降

本文は下記の体裁に分けて記載することが望ましい。必要に応じ、各項目を統合、省略しても良い:緒言(introduction)、対象または材料と方法(Subjects, Material and Methods)、結果(Results)、考察(Discussion)、結論(Conclusion)、謝辞(Acknowledgments)、文献(References)。RCT論文の場合は改訂版 CONSORT 声明(2001)に準じる1)。

D: 引用文献

引用文献は、本文中においては順次に番号をつけ本文の終りに番号の順序に列挙する。各文献に著者名、表題、書誌名、巻、開始ページ～終了ページ、発行年(西暦)を明記する。巻数の記載を欠く雑誌を引用する場合は、巻の代りに通し号数、または発行年月日を記入する(例:日本医事新報)。復刻本以外の古文献の場合:近代以前の古典籍については、編著者名・書名・成立年・刊行年(もしくは抄写年)・発行者名・発行地および該当丁(葉)数(表・裏)あるいは頁数もしくは項目名を記し、稀覯本については所蔵者名も明記する。原則としてメーカーの発行する販売促進用誌からの引用は認めない。

(例示)

1. Hanakawa S.: Increase of urinary 6-keto-prostaglandin level by preoperative administration of goreisan or tokishakuyakusan to the patients with gallbladder stones or polyps. J. Med. Pharm. Soc. Wakan-Yaku, 9, 32-39, 1992
2. 草木太郎:難治性活動性肝炎の柴胡剤と桂枝茯苓丸の併用療法, 日東医誌, 31, 19-27, 1980
3. Hanaeda M, Koeda N, Oeda O, and Tahata M.: Scientific reevaluation of Kampo prescriptions using modern technology. In Recent Advances in the Pharmacology of Kampo (Japanese Herbal) Medicines. Ed. Hanaeda M, 213-218, E. Medica Ltd., Tokyo, 1988
4. 樹木次郎, 森山三郎:漢方診療辞典, 60-65, 北山堂, 東京, 1975

E: 図表の作成

E-i: 紙原稿の場合

図表は鮮明でそのまま印刷できるものを用いる。図版作製の実費は著者の負担とする。写真は紙焼きを原稿とすること(スライドのみは受け付けない)。ただしカラー仕上げを希望の場合は紙焼きとスライドの両方を添付する。図・表の裏には必ず著者名、図表番号、上下を明記する。これらは原稿の末尾に添付し、本文の中に挿入すべき位置を明示する。図は1図表ごとに1ページとし、本文のあとにつける。全てのページにページ番号を通してつける。図の説明は別紙に記載し、本文の後ろにつける。

E-ii: 電子原稿の場合

図表は、PowerPoint で作成する。各頁に図表の番号を記述する。写真の保存方法については JPEG 形式が望ましい。

F: 略語, 単位, 漢方処方名

略語は初出時に、全てをスペルアウトして明示する。ただし一般的に通用する略語はこの限りではない。(例:ATP, cAMP, cDNA, DNA, mRNA, RNA, UV)

単位は以下のものを用いる:メートル(m), グラム(g), リットル(l), 秒分時日, 温度(°C)など。漢方処方名, 生薬名のローマ字表記に関しては別紙1に示した。また漢方処方名と生薬名の日本語とローマ字表記の対照表は付表1および付表2に準じる。(別紙1, 付表1, 付表2)

・漢方処方記述例

- 1) 「〇〇湯エキス(メーカー名, 量g/日)」とする。()は初出のみ記述。
- 2) 「〇〇湯(煎液)」として, 内容(gと産地)は文末等で述べる。

8. 印刷の形式と著者校正

印刷の形式は編集委員会に一任するものとする。著者校正は原則として1回(本文字句と図表の確認のみで, レイアウトの確認は含まれない)とする。著者再校(レイアウトの確認)を希望するものは, あらかじめその旨初校の際に添え書きすること。著者再校においては明らか

な誤り以外の字句の訂正は認めない。別刷を必要とする場合は校正の際に第1ページにその部数を記入する(原著に限り30部まで無料)。掲載原稿および電子媒体は原則として返却しない。

9. 投稿料

9-1: (ページ投稿料)

必要な場合及びカラー図表のある場合には、別途申し受ける。

9-2: (別刷料金)

有料。10部単位で注文を受ける。ただし原著に関しては別刷30部を無料で進呈する。それを超える場合は別途申し受ける。

参考文献

- 1) David Moher, Kenneth F. Schulz, Douglas Altman. The CONSORT Statement: Revised Recommendations for Improving the Quality of Reports of Parallel-Group Randomized Trials. *JAMA* 285, 1987-91, 2001. (津谷喜一郎, 小島千枝, 中山健夫訳. 無作為化比較試験の報告の質を改善する方法CONSORT声明: ランダム化並行群間比較試験報告の質向上のための改訂版勧告. *JAMA* (日本語版), 2002年6月号:118-124)
- 2) International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE): Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication (*Updated October 2007*), <http://www.icmje.org/>. (国際医学雑誌編集者委員会: 生医学雑誌への投稿のための統一規定: 生医学の発表に関する執筆と編集 (2006年2月改訂版は、以下のwebサイトに掲載されている <http://www.toukokuitei.net/i4aURM.html>))

添付: 書式5-1または5-2(投稿時のチェックリスト)

添付: 書式6(著作権譲渡承諾書)

別紙1: 漢方処方名および生薬名のローマ字表記法(ホームページ及び日本東洋医学雑誌 59(1), 168-173, 2008 に記載)

付表1: 漢方処方名のローマ字表記対照表(ホームページ及び日本東洋医学雑誌 59(1), 174-179, 2008 に記載)

付表2: 生薬名のローマ字表記対照表

お願い

漢方医学用語の英文表記については検討中であるが、下記のように対応している。ご協力頂ければ有り難い。

1) 文献名・著者名の表記は、それぞれの国の読みに従った記載を一度は行う。

例: Shanghanlun (傷寒論), Zhang Zhongjing (張仲景), Kokan'igaku (皇漢医学)。

2) キーワードには必要に応じて解説をつける。

例: *Heibyo* (併病); *Heibyo* is a concept of disorder ranging between Tai yang disease and Yang ming disease in Shanghanlun.

3) 判断に迷うケースはご相談ください。